

2004 . 3

# 白石区民のページ page

白石区インターネットホームページ  
<http://www.city.sapporo.jp/shiroishi/>  
白石区民公式サイト「shiroishi.org」  
<http://www.shiroishi.org/>

「試しに歌ってみなさい。あら、いい声してるわね」。高校の音楽科でピアノを専攻していたが伸び悩み、音楽への転向を決断するとき、この言葉が決め手となった。高校受験の直前、ピアノのレッスンを受けた先生に言われ、ずっと心に残っていた言葉である。「ピアノが駄目なら歌しかないと思ったんだよ」と笑うが、それまでピアノ中心だった則竹さんにとって、声楽家としての第一歩となる大きな決断だった。高校二年生のときである。

機に札幌に来た。現在は、大学教授として働く傍ら、自身のコンサートを開いたり、合唱団の指揮者や音楽講座の講師を務めたりと、持ち前の明るさで幅広く音楽活動に携わる。また、市民が気軽に音楽に触れる機会を増やそうと、オペラ公演や演奏会・音楽講座を開催している「NPO法人札幌室内歌劇場」の代表も務めている。彼の活動の原動力は、「音楽は人に夢を与える力がある。一人でも多くの人に音楽を聴いて幸せな気分になってほしい。そして音楽を好きになってほしい」という思いである。また、演奏するときは、自分が楽しむだけでなく、聴き手と一緒に感動

夢を与え幸せな気分にさせてくれる音楽。一人でも多くの人に味わってほしいですね。

声楽家

今月の

人

則竹のりたけ

正人まさひとさん

(五二)

(栄通在住)



することを大切にしている。歌のだいご味は「発声法が奥深く、また、日によって声の調子にも浮き沈みがあること」だという。自分から音楽を取ったら何も残らない。加齢と共に音域が狭くなるが限界と感ずるまでは歌い続けたいと力を込める。

声楽家にとって三十代は基礎、四十代は勉強、五十代は自分のやりたい方向性を固める時期。自分もこの年になってやっとやりたいことが見つかったという則竹さん。「今後はドイツ歌曲をたくさん歌いたい。自分の声質にも合っているし、やっぱり一番好きですね」。彼が最も輝くのはこれからだ。

編集 白石区役所総務企画課広聴係  
☎003-8612  
札幌市白石区本郷通3丁目北1-1  
☎861-2400 内線224  
FAX860-5236